

玉川上水・野の花だより No. 1 3

マツモトセンノウ (*Silene sieboldii*) なでしこ科

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

2026年6月1日

真夏のような毎日が続いています。4月3日に近隣保育園の子どもたちが植えた苗がすくすくと育ち、鮮やかなオレンジ色の花が咲きだしました。マツモトセンノウという名前で、江戸時代から庭園に植えられ愛されてきた野の花です。原種は九州と言われており、花の色はオレンジ、白、絞りと多様ですが、写真のように、大山緑道では「絞りの花」が開きました。古典的風情があります。

私は名前が示すように、長野県松本の産と思っていたのですが、今回、皆さまにご紹介するため、「新牧野日本植物図鑑」を確認したところ、なんと、次のように記載されていました。

「マツモトは花の形が俳優松本幸四郎の紋所に似ているので、このように呼んだものである。したがって信州松本あたりによく自生するから、この名がついたというのは誤りである」

あわてて、松本幸四郎の家系図を調べたところ、初代は1674年～1730年で、定紋は、「四つ花菱」といわれるもので、確かに一つ一つの花が、マツモトセンノウをデザイン化したものでした。

徳川家の葵紋は、3枚のフタバアオイを配したもので、桔梗、菖蒲、朝顔、沢潟（オモダカ）など、野の花に由来する家紋は数多くあります。野の花が日本古来の文化の一端を担ってきたことに、あらためて、思いを深くしています。



野の花・植栽風景

2026年4月3日



マツモトセンノウ

2026年5月31日 撮影